

平成29年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成29年7月27日(木)13:30～17:40

2 場 所 福知山市役所 全議員協議会室

3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員
福知山市	渡辺市長公室長、大西次長、岸本課長補佐、大槻主査、中田囑託
福知山公立大学	井口学長、富野副学長、遠藤地域経営学科長・教授、山本事務局長、竹友事務局次長、大橋学務・学生支援グループマネージャー、大岡、矢野

※細見委員は欠席

4 議題

【議題1】平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について

【議題2】平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分の承認に係る意見について

5 会議概要

	議題	内容
1	【議題1】平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について	【資料1】【資料2】【資料3】【参考1】【参考2】により説明
2	【議題2】平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分の承認に係る意見について	【資料4】【資料5】【資料6】【参考3】【参考4】により説明
3	意見交換・質疑等	(主な意見) 【議題1】 ■法人自己評価において「4」が多いが、「4」と評価する理由が不明瞭である項目が少なくない。 ■「計画の実施状況」欄への具体的な記述が少ない。 ■年度計画の中に、数値目標等の記述が望ましい。 ■フィールド学修の実施は評価できるが、その実施と学生の学修成果との関係性が見えにくい。次年度以降は、学生への教育成果(学修アウトカム)を具体的に記述いただきたい。

		【議題2】 ■ 剰余金を目的積立金として整理することに異存ない。ただし、人件費の削減が経営努力とは必ずしも言えないため、付帯意見を付すかどうか検討する必要がある。
--	--	---

6 次第

(1)開 会 挨 拶 青山委員長

(2)事務局挨拶 渡辺市長公室長

(3)事務局説明

- 【資料1、2】により業務実績評価の進め方を説明。
- 【資料3～6】【参考3、4】により財務諸表の承認に係る事務局確認事項及び利益処分承認に向けての進め方を説明。

(青山委員長)

委員の皆様には、業務実績報告書を事前評価いただいたが、評価のポイントや評価をされるうえで感じられたことなどをそれぞれ一言いただきたい。

(委員)

- 大変な状況の中、大学を立ち上げられたが、教職員が協力し、ここまで到達されたことを評価したい。
- 法人自己評価において「4」が多いが、「4」と評価する理由が不明瞭である項目が少なくない。また、定量的に評価できる項目が少ない。
- 中期計画6年間、毎年度業務実績評価を行っていくわけだが、定員を満たし教育をすることだけを目的とするのではなく、法人には「何故この計画を立てたのか、それをどのように教育研究の改善に活かすのか」という目線を大切にしていきたい。
- 個人的には法人自己評価を尊重して評価したが、本日の福知山公立大学の説明を聞いたうえで最終的に評価したい。

(委員)

- 福知山公立大学の広報記事を目にする機会が多く、努力されていると感じる。
- ただし、広報は大学の取り組みを発信することだけが目的ではない。取り組み内容によって広報目的が異なる場合もある。広報の目的をしっかりと捉え、また、広報をどのようにつなげていくのかの視点を大切にしてほしい。
- 教職員不足が気になる。また、人件費を削減してしっかりとした授業が行えるのか。
- 老朽化している施設が増えていると推察されるが、その都度突発的な修繕をするのではなく、中長期的な視点に立った施設・設備修繕計画を立てることが必要ではないかと感じた。

(委員)

- 限られた時間の中で大変な御苦勞な中、大学を立ち上げられたことを鑑みると、努力されていると感じる。私たち評価委員も、福知山大学には自立、発展してほしいと願っている。
- 業務実績報告書に具体的な記述が少なかった。様々な業務を抱えられている中、業務

実績報告書を作成する時間が少なかったのかもしれないが、評価委員としては業務実績報告書に基づき評価をする立場であるため、辛口に評価させてもらった。

(委員)

- 評価の基準が不明確である点が多いと感じた。年度計画には、評価をしやすい数値目標をできる限り記述いただきたい。
- 来年度は、今年度の業務実績評価を反映した形で業務実績報告書を作成いただきたい。
- 評価は何のためにするのかの視点が必要。福知山公立大学で学ぶ学生に適正な教育を提供できているかを第三者の目で評価することが重要。学生がどこまで学びを高めることができたかを評価することも求められる。今回の業務実績報告書には、この学生への教育成果が十分に書き込まれていなかったもので、今後は学生の立場に立った学修アウトカムをもう少し具体的に書いてもらえたらより充実した中身になると感じた。

(青山委員長)

委員の皆様からの御意見や事務局からの評価の進め方に関する説明について疑問点等あったら御意見いただきたい。

(委員)

- 評価委員会としての評価は、5人の評価の平均値とすることが民主的なものかもしれない。その点で言えば、法人自己評価と委員5人の評価結果が同一の小項目については、それを評価点として差し支えないと考える。
- しかし、一人でも法人自己評価と違う評価をされている項目については、その意見を真摯に捉えて、時間の許す限り審議してはいかがか。

(委員)

- 法人自己評価と委員評価が同一であったとしても、評価委員のコメント欄を重要視すべきである。

(委員)

- 福知山公立大学は、今年度、大学認証評価を予定されているが、大学認証評価はかなり厳しく評価される。大学認証評価においては明確な数値目標や成果がないと評価されない。
- 今後受審される大学認証評価をにらみ、個人的には厳しく評価させていただいた。
- もちろん、1年目でありながら、よく努力されたという気持ちもあるが、評価委員として客観的に評価したい。

(青山委員長)

それでは、法人自己評価と評価委員の評価結果が異なる小項目を中心に時間の許す限り、審議させていただきたい。

また、財務諸表及び利益処分について確認したい。大学監事による監査がなされているため、財務諸表については一定整理されていると思うが、財務諸表、特に利益処分の承認に向けての進め方について、御意見等あれば御発言いただきたい。

(委員)

- 人件費が何故これほど少なくすんだのか、人件費が少なくすんだのは経営努力によるものなのか、福知山公立大学へのヒアリング時に確認したい。
- また、受託研究費をはじめとする自己収入を確保することも重要。そのためには、企業等との連携を深め、外部資金を確保するための制度設計が必要だと考えるが、現在の程度の進捗度合いなのかも確認したい。

(委員)

- 福知山公立大学からの説明で剰余金が経営努力により生じたものであることが確認できれば、目的積立金として整理することに異存ない。

(委員)

- 私も剰余金が学生への教育内容の質を落とさずに経営努力により生じたものであれば目的積立金としていいと考える。

(青山委員長)

ありがとうございました。剰余金が経営努力によるものかどうかについて、福知山公立大学からの説明を聞いたうえで判断したい。

福知山公立大学ヒアリングに入る前に、業務実績評価を効率的に行うために、質問のポイントを整理しておきたい。大学に質問したい項目や業務実績報告書を見て感じられたことなど御発言いただきたい。

(委員)

- 年度計画3・・・教養科目が成美大学時代と比して増やしたとのことだが、当初計画どおりであるため評価3が妥当と考える。
- 年度計画4・・・福知山公立大学開学記念連続講演会を京都府北部5市2町で開催されたことは評価できるが、当初計画どおり7回開催しただけでは評価3が妥当と考える。
- 年度計画6・・・福知山公立大学の特色である地域協働型実践教育を目的に沿って粛々を行っているのであれば評価3が妥当と考える。
- 年度計画10・・・ディプロマ・ポリシーを定めるのは当たり前のことであるため、評価3が妥当と考える。
- 年度計画12・13・14・・・具体的な記述がなく、また計画どおり実行されただけではないか。
- その他、同様の項目が多々あるように感じた。

(委員)

- 事前にディプロマ・ポリシーを拝見したところ、学生を主語とし、学生にわかる言葉でしっかり書かれているので評価できる。

(委員)

- 年度計画に定量的な目標が少なく、また他大学と比較するとボリュームが少ないため、厳しい評価になってしまった。

(青山委員長)

ありがとうございました。それでは10分ほど休憩を取った後、福知山公立大学の皆様に入室いただき、ヒアリングを開始したい。

～休憩～

(4) 福知山公立大学ヒアリング(⇒は大学からの回答)

平成28年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

まずは、大学より、業務実績報告書について簡単に概要説明をお願いしたい。

➤ 井口学長より概要説明

(委員)

年度計画1の現行カリキュラムとは。

⇒2016年度1回生を対象としたカリキュラムのこと。開学時は、設置者変更手続きにより大幅なカリキュラム改正ができなかったため、昨年度カリキュラムを見直し、2017年度1回生から適用している。

(委員)

年度計画4・・・福知山開学記念連続講演会を7回開催したという明確な記述がない。また、本項目は「教育の質の向上に関する目標を達成するための措置」であるため、学生にとってどのような教育成果があったのかを記述すべきである。なお、地域協働(地域貢献)の質の向上を達成するための措置の項目において、年度計画51に福知山公立大学開学記念連続講演会に係る目標が掲げられているが、こちらは地域協働の観点なので4評価でも妥当ではないかと考える。

⇒予算の制約がある以上、7回以上の開催はできなかった。そのため、かなりの工夫を凝らし、講演会の質を上げることに努めた。単なる講演会ではなく、京都府北部各市町の各首長、基調講演講師、本学担当教員が鼎談するという珍しい形の講演会を企画したところ、出席者に大変好評であった。これを見られた兵庫県丹波市からは是非兵庫県でも行ってほしいという要望をいただき、平成29年度は兵庫県でも連続講演会の開催を予定している。こうした点を踏まえて評価4としている。

(委員)

福知山開学記念連続講演会は学生にとってどのような学修成果があったのか。

⇒担当教員が参加し、学生にフィードバックした。

(委員)

年度計画94・・・企業等から外部資金を確保するための制度設計が必要だと考えるが、現在の程度の進捗度合いなのか。

⇒本学をふるさと納税の対象に加えていただくよう福知山市に要望し、制度化を進めている。

(委員)

年度計画79・・・教員、職員が不足しているのに何故評価3なのか。不足しているのであれば評価2ではないか。

⇒教職員が不足している中、限られた人数で努力しているという観点で評価3とした。ただし、教職員の適正な定員、配置は設置者である福知山市の意向が大きく影響するので、我々としては、福知山市に要望している状況である。

(委員)

年度計画123・・・当面の施設改修に留まらず、計画的に整備や改修をするために、施設全体の設備の現状を把握し、長期的視野に立った修繕計画を立てる必要があるのではないかな。

⇒建物点検は随時しているが、もぐら叩き状態である。エレベーター、エアコンも交換時期に来ている。

⇒今後、学生定員を増加させていきたいが、現在の学部学科構成のまま定員を増やすべきかどうかを昨年度後半から学内で検討している。もし、学部学科構成を変更することになれば、施設整備計画にも関わる。したがって、今年度、大学将来構想を検討する中で、施設全体の整備計画も検討したい。

(委員)

大学将来構想を検討することをこの項目に記述いただければ、もう少しわかりやすかった。

⇒業務実績報告書の別の小項目に記述している。

(委員)

市民が読んでわかりやすいように記述いただきたい。

(委員)

年度計画4・・・福知山公立大学開学記念連続講演会の取り組みは、教育の質の向上に関する目標であり、学生への教育成果が記述されていなければならない。つまり、この年度計画は地域協働(地域貢献)に掲げる必要があるもので、次年度以降注意が必要である。

ディプロマ・ポリシーは細かく作成されており、またシラバスも手本となるようなものがたくさんあったと大いに評価するが、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、シラバスの作成プロセスを教えてほしい。

⇒教務委員会の中にカリキュラム策定委員会を設け、事務局教務系の職員が中心となり、教務委員長と共同して作成にあたった。

(委員)

地元の国公立志望の高校から入学いただける大学でなければならない。過去の負の遺産を払拭することはなかなか難しいことかもしれないが、地域の優秀な学生を獲得する方法についてお考えがあればお聞かせいただきたい。

⇒昨年度は推薦定員を確保することができなかったもので、北近畿地域の推薦枠の確保に全力を尽くしたい。しかし、地域経営学部単一学部だけでは厳しい。もうひとつ別の分野の学部が必要ではないかと考えている。

(委員)

年度計画10・・・ディプロマ・ポリシーを明確に定めたと記述されているが、教育の質の向上にどのように寄与したのか読み取れない。何故評価4になるのか。

⇒相当の議論を重ねてディプロマ・ポリシーを策定したためである。

(委員)

業務実績報告書の「計画の実施状況」欄にあっさりと書かれている項目が少なくなく、評価4に相当する内容であったとしても取り組み成果が伝わりにくい。

(委員)

年度計画12・・・具体的記述がない。GPA による学業評価を学生評価に役立てたのみであ

れば計画通りであるため評価3が妥当である。

⇒GPA1.0 未満が1～4回生全体で27人と成美大学時代より多い人数であったが、全員に対して指導したため評価4とした。

⇒在学生の学力層の幅が広く、指導が容易とは言えない中で指導に当たった点も鑑みて評価4とした。

(委員)

年度計画6・フィールド学修を数多く行われていることはわかるが、学生への教育成果をどのように分析しているか。

⇒地域協働型教育の評価方法が全国的に確立されていない状況ではあるが、学生自身が地域協働型教育を通じて何を獲得したかについて自覚を持つことが重要。学生へのアンケート調査を行ったところ、情報収集力、分析力、コミュニケーション力、プレゼンテーション能力が上昇したと実感する学生が8割にのぼっている。

⇒実践教育デーを設けて、全学体制でフィールド学修を実践したことは大改革であり挑戦。

(委員)

地域協働型教育が福知山公立大学のキーであると思っているので、ルーブリック評価等を用いた直接評価、学生からの間接評価、地域の人からのアンケート評価等といった第三者評価などを組み合わせて評価し、次年度以降取り組んでいただきたい。

⇒今年度の学長裁量経費である教員研究プロジェクトは、テーマを「地域経営学とは何か」一本に絞り、教員に研究してもらっている。今年度中に地域協働教育の一定のまとめをしたい。

⇒学修成果の測定方法として、学修ポートフォリオを検討している。

(委員)

SD 研修等において、地元の高校生が福知山公立大学に入りたいと思えるような広報方法を検討いただきたい。

平成28年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表及び利益処分の承認に係る意見について

(青山委員長)

それでは財務諸表等について簡単に概要説明をお願いしたい。

➤ 竹友事務局次長より概要説明

(委員)

【資料3】決算報告書において、人件費が25,060千円減少の内訳は。

⇒教員9,105千円、事務職員11,182千円、役員所定福利費4,773千円減少している。

(委員)

人件費を削減できたことは大学の経営努力によるものなのか。

⇒専任教員23人のうち5人を特任教員として採用している。特任教員は給料表の6割の支給であるが、専任教員と変わらない授業数を担当してもらっている。また、事務職員は、採

用予定より2人減員の13人、うち1人は特任職員（給料表の7割を支給）であり、教員、職員がタスクフォースを組み、互いの業務をフォローし合いながら、時間外勤務の削減に向けて努力している。こうした取り組みを通じて人件費を削減した。

（委員）

特任教員を採用したことによる教育への影響は。

⇒特任教員5人はそれぞれ幅広いキャリアを持っており、むしろ教育・研究の幅を広げ、教育・研究の質の向上につながっている。

（委員）

事務職員の月の平均残業時間はどの程度か。

⇒30時間程度である。

（委員）

定員200人になれば、教職員は増員する必要があるのでは。

⇒教職員とも抜本的に増員必要。

（委員）

【資料3】決算報告書の「授業料等収入」の差額12,914千円の内訳は。

⇒入学料収入の増16,646千円、検定料収入の増5,905千円、授業料収入の減9,637千円である。

（委員）

授業料収入が減少した理由は。

⇒当初、学生数を少し多めに見ていたためである。

（青山委員長）

委員の皆様、他に御意見、御質問ないか。

福知山公立大学の皆様、本日はありがとうございました。御退席ください。

それでは、ここで10分休憩を取った後、再開する。

（5）評価委員会まとめ

業務実績評価

（青山委員長）

【議題1】業務実績評価について振り返りたい。本日の福知山公立大学への意見聴取内容等を踏まえて、業務実績報告書126項目について、評価委員会としての評価をつけたい。

【資料2】評価結果一覧表を御覧いただきたい。法人自己評価と委員評価が一致している小項目は、この評価点を評価委員会としての評価として決定したいと思うが、よろしいか。

（全委員）

異議なし。

（青山委員長）

ありがとうございます。さて、問題は、法人自己評価と委員評価が異なる箇所だが、事務局案は、委員5人の平均値を四捨五入した数値をとりあえず評価点としている。その場合、47、87番が法人自己評価より1つ評価が下がるが、それ以外は、法人自己評価と同じ評価点となる。この小項目は評価を上げたほうがいいのか、あるいは下げたほうがいいのかというなど御意見をいただきたい。

(委員)

法人評価と異なる評価をされている委員の意見も大切ではないか。

(青山委員長)

それでは、法人評価と異なる評価をされている小項目について、1つずつ見ていくこととする。
なお、評価結果について、法人が意見を申し出るのはどの時点か。

(事務局)

本日の評価委員会終了後、業務実績評価書原案を作成し、速やかに法人に提示のうえ、次回評価委員会までに法人から意見書を提出してもらう。次回は法人の意見書を踏まえ、業務実績評価書を修正審議いただくという流れである。

【資料2】により各小項目を評価

財務諸表等

(青山委員長)

福知山公立大学からの説明を踏まえ、財務諸表等について御意見を頂戴したい。

(委員)

剰余金は経営努力が認められるため、目的積立金として整理する方向でよいのではと考える。

(全委員)

同意見である。

(委員)

人件費を削減し、その分を施設修繕に充てているようだが、一般企業ではありえないのではないか。

(委員)

事務職員の定数である15人を配置した上で人件費が削減できているのであれば、誰もが経営努力によるものであると納得すると思う。しかし、法人の説明は、事務職員は不足しているが、本来配置すべき人数を配置せず教職員が互いに協力し合った結果剰余金が生じたというものだった。これを聞くとすんなりと納得することは難しいのではないか。何らかの付帯意見を付す必要があるのではないか。

(青山委員長)

我々としては目的積立金として整理することに異存はないが、大学への応援メッセージという意味も込めて付帯意見を付けるかどうかについて次回の評価委員会で審議したい。

7 その他

特になし

8 閉会

《次回評価委員会》

- ・日 時 平成29年8月9日(水)15:00～
- ・場 所 福知山市役所 全議員協議会室

以上